

平成26年度 第1回大阪府立吹田高等学校学校協議会 記録

○日 時 平成26年6月23日（月）午後7時～午後8時45分

○場 所 大阪府立吹田高等学校 本館2F会議室

○テーマ 平成26年度学校経営計画の進捗状況について

○出席者（敬称略、委員は50音順）

会長 白井 孝雄（大阪薫英女学院中学校・高等学校校長）

委員 大江 慶博（吹田市立第二中学校校長）

川辺 浩一（本校後援会会長）

高田 英克（本校PTA会長）

辻 良夫（藤が丘上自治会会長）

土井 実（鳳志会副会長）

校長 浅田 明子

○事務局

手島 肇（教頭）、植木 邦博（事務長）、磯原 健志（首席）、大西 英之（首席）

■委員から出された主な意見等

- WJK（わかる授業開発チーム）等の言葉は先生には定着しているものの、生徒への浸透率は低いということだが、授業を受ける側の意識も大切と思うので、生徒に対しても活動内容を公表する等オープンしていくと良いのでは。
- 学校経営計画及び学校評価の1の（1）のアの生徒向け授業アンケートにおける授業等学習活動に関する項目について満点が4.0で平成28年度には3.20以上に引き上げるとされている。満足度とか肯定率という表現があるが、それぞれどういうものかわかりにくい。
- 前回の協議会でこうした方がわかりやすいと委員から意見のあったところは直していただいており、非常に分かりやすい表記になっている。学校評価について平成24年度をベースに5年先を見据えた目標との説明があったが、例えば、遅刻の目標について、思っていた以上に遅刻数が下がらないから目標値を下げようということは可能か。素案では平成28年度には2千件以下となっていたが、今回のでは平成27年度には遅刻総数を2千5百件以下と、目標年度が前倒しになるとともに数値も5百件増えている。5年先を見据えた数値はあまり変えるべきではなく、変える場合はよほどの理由が必要では。
- 本年度の取組内容及び自己評価の「2 学校生活の充実・魅力ある学校づくり」の「（2）学校行事・部活動のさらなる充実、活性化」の評価指標の3つめの「生徒向け学校教育自己診断における部活動に対する満足度60%以上」は素案にはなく追加されている。クラブ活動をしている生徒が本当に楽しいかどうか、満足しているかどうか、そこからいろんなことが見えてくる。アンケート調査は生徒や保護者の生の声を聞くいい機会なので、やりようによって、その中で見える何かがあると思う。いち早くそういう動きを察知し、それに柔軟

にすばやく対応いただきたい。

- 生徒指導部の資料の④登校マナーに関する肯定率80%以上について、従来と同じ質問をすればこういう項目は出てこないが、登校マナーに関する項目を新たに作られるのか。近隣の迷惑にならないような登校の仕方を目指していくのはいいこと。
- 遅刻の件だが、1年間に3千件、これは多いのか少ないのかわからないが原因は調べているか。4年前の1万3千件から3千件にまで減少し、現状は下げ止まり的とのことであり、何か対策が必要ではないか。生徒に意識を持たせるには、生徒に対し数字を示していくことも大きな効果があると思う。また、ある特定の子が繰り返し遅刻しているのであれば、目標は総数ではなく、生徒数の割合としてはどうか。
- 岸辺地区の民生児童委員総会で、朝の自転車の通行状況が話題になり、5月某日、吹田高校前で調べたところ、8時10分から30分の間で230～40台位の自転車が行き来し、そのうち170台位が吹田高校の生徒であった。時間が経つにつれ、自転車のスピードが速くなっていた。保育園の子どもや高齢者が動き出す時間帯と吹田高校の自転車通学の時間帯が重なると不要なトラブルも危惧される。地域をあげて取組みを考えなければならない。
- PTAとして、親として、子どもたちに促したいということで、今年5月、PTAから自転車マナーに関するパンフレットを生徒に配布、指導をした。その後、吹田東高校、北摂つばさ高校も含め、保護者として吹田地域の自転車マナーの向上に何かできないか話を進めようとしている。どのように地域を巻き込んでいくか、吹田高校から発信していくことで、通学マナーの向上を進めていければと考えている。
- 地域住民から見て、最近の生徒はおとなしくなったし、真面目になった。やんちゃな子が少なくなったというのが実感。本当に先生方が指導されてきた賜物と思う。これからも大変でしょうけれどよろしく願います。